

## 令和4年度 第2回久留米市上下水道事業運営審議会（要旨）

### 1 開催日時

令和5年2月27日(月) 13時30分から15時30分

### 2 会場

久留米市企業局庁舎 3階 第1会議室

### 3 出席委員・アドバイザー（名簿順）

#### ・委員

広城吉成委員、香月孝文委員、本松賢治委員、齊藤由里恵委員  
西野恵子委員、倉八啓壽委員、権藤裕子委員、野口裕史委員  
計8名

#### ・アドバイザー

松田純一氏 計1名

### 4 欠席者

#### ・委員

堀田富子委員 計1名

#### ・アドバイザー

原正文氏 計1名

### 5 事務局（市職員等）

徳永企業管理者、住吉上下水道部長、中村上下水道部次長、新原上下水道部技術担当次長、長野経理課長、柿原営業管理課長、橋本給排水設備課長、待鳥上水道整備課主幹、河野浄水管理センター所長、宮崎下水道整備課長、下川下水道施設課長、牧ノ内河川課長、その他事務局職員等8名

### 【議事次第】

#### 1 開会

#### 2 企業管理者挨拶

#### 3 議題

##### （1）報告事項

##### ①経営戦略に基づく令和4年度取組みと目標の達成状況

－1 水道事業（決算見込み）

－2 下水道事業（決算見込み）

##### ②経営戦略に基づく令和5年度の目標及び取組みについて

－1 水道事業

－2 下水道事業

##### ③経営戦略の取組み状況について

－1 生活排水処理基本構想の見直しについて

#### 4 令和5年度について

・経営戦略中期改定についての諮問、答申スケジュール

## 5 その他

次回 令和5年度第1回久留米市上下水道事業運営審議会  
令和5年5月頃 開催予定

## 6 閉会

### 【配付資料】

- ・ 令和4年度第2回久留米市上下水道事業運営審議会次第
- ・ 久留米市上下水道事業運営審議会委員名簿
- ・ 第2回久留米市上下水道事業運営審議会座席表
- ・ 経営戦略に基づく令和4年度取組みと目標の達成状況 ……資料①
- ・ 令和4年度決算見込み及び計画の推進（水道事業） ……資料②-1
- ・ 令和4年度決算見込み及び計画の推進（下水道事業） ……資料②-2
- ・ 経営戦略に基づく令和5年度の目標及び取組みについて（水道事業） ……資料③-1
- ・ 経営戦略に基づく令和5年度の目標及び取組みについて（下水道事業） ……資料③-2
- ・ 生活排水処理基本構想の見直しについて ……資料④
- ・ 令和5年度経営戦略年間スケジュール ……資料⑤
- ・ 久留米市図面（水道事業関係） ……図①
- ・ 久留米市図面（下水道事業関係） ……図②

### 議事録要旨

#### 1 開会

- 事務局より、委員の半数以上が出席しているため、会議が成立していることの報告
- 事務局より、傍聴者の確認⇒傍聴希望者なし

#### 2 企業管理者挨拶

事務局より、企業管理者挨拶

#### 3 議題

##### (1) 報告事項

##### ①経営戦略に基づく令和4年度取組みと目標の達成状況

##### －1 水道事業について

（事務局より資料①経営戦略に基づく令和4年度取組みと目標の達成状況、資料②-1 令和4年度決算見込み及び計画の推進（水道事業）を用いて説明）

#### 《質疑・応答》

##### ○齊藤委員

資料①について、A評価が8項目、B評価が11項目と概ね順調だということは分かった。その中で、B評価の数がA評価の数より多いが、B評価とはどういう解釈をすればよいか。例えば、P7にb評価が1項目あるが、これはどう見ればよいか。定量的に分ければよいが、定性的に評価しているのか。

また、令和4年度の決算見込みについて、企業債残高の件だが、方向性が定まらないのであまり進んでいない点もあると説明があった。浄水場等大きな施設についてはそれで分かるが、管路の進捗はどうか。P15の災害に強い管路への更新の評価でb評価の項目があるが、計画的に進んでいるのか。概ね順調にしているが少しの誤差でB評価なのか。管路については入札しても落札がうまくいかない状況があると聞いている。そういった点や人員の件で思うように進まなかったりしているのか。状況を教えてほしい。

■事務局（総務 篠原補佐）

評価の件について、各課において目標を立て、それに対してどこまでできたのかを今回の資料外の別シートで管理しており、それに基づいて点数付をしている。また、指標については、令和2年度に設定したものであり、一度遅れると遅れていってしまうというものになっている。次年度、経営戦略前期3年間の見直しを図るので、そういったところを踏まえてこの目標値が本当に正しいのかどうかという判断を行ってきたいと考えている。

■事務局（総務 藤原補佐）

決算見込みの経営指標中の企業債残高に関してだが、経営戦略上は、投資の総枠約80%を起債で賄う計画としていた。実際は、約50%程度の起債の借り入れとなっている。これは、借り入れるときに適債性があるものしか起債が借りられないということや、県の広域化関係等で方向性が見えていない部分があり、そういった要因で少し企業債残高が低くなっている状況である。

○齊藤委員

年度当初に予定を立て、それを実施し、その結果を示すところまではよい。重要なのはその次のステップで、達成できなかったものをどうしていくのかを考えること。年度をまたいで実施するものもあれば、事業によっては事業継続の必要性を考える等を行うことで次の経営戦略の見直しに生きてくると思う。次に何をすべきかまとめ、見える化をしていくことが重要だと思うのでご検討いただきたい。

○西野委員

資料①P18スマートメーターの導入に向けた実証実験とあるが、スマートメーターとは何か。

■事務局（営業管理課 柿原課長）

スマートメーターについては、水道の検針を人ではなく、通信システムを使うことで機械的に検針するものであり、次年度より実証実験を行う。

○西野委員

現在検針員が2ヶ月に1回現地で検針しているものが機械でできるようになるということか。

■事務局（営業管理課 柿原課長）

そのとおり。

○野口委員

資料①P 1 2 田主丸地区への水道の普及について、田主丸地区は井戸水を使っているのに水道を使わない家庭があると思うが、井戸水の水質は事務局で調べているのか。井戸水の水質が心配かと思うがその点はどうか。

■事務局（上水道整備課 待鳥主幹）

井戸水の水質については、上下水道部で管理はしておらず、井戸水利用のお客様自身で水質の管理をいただいている。

○香月副会長

資料②-1 の件で、収益的収支の費用が3億円弱前年度から増加しており、増加理由として動力費の増加が挙げられたが、動力費は今年度の途中から急激に上がったイメージがある。動力費は今期どの程度増えたのか。

■事務局（総務 藤原補佐）

動力費については、1 2月補正予算で不足分を補正しており、水道事業で6, 400万円程度の補正を行った。

○香月副会長

動力費は10月ぐらいから急激に上がったので、約半年間で6, 400万円上がったような認識だとすると、1年間に引き直すと1億3, 000万円程度になるが、今後動力費はそのくらい増加するという理解でよいか。

■事務局（総務 藤原補佐）

予算の組み方としてはその全てを予算化しているわけではなく、ある程度予想を立てたところでの予算組となっている。

○本松委員

今回の寒波で漏水が900件程度の漏水事故があったとのことだが、一次側のことか、二次側のことか。土地の埋設か、露出のものか。漏水がどこであっているかを把握することで今後の対策がとれると思うので教えてほしい。

■事務局（上水道整備課 待鳥主幹）

1月24日から同月27日までの寒波により、900件程度の漏水が発生し、900件とは漏水があったメーターの二次側（宅地内側）、つまりメーターが回っている状態の漏水を集計している。漏水部分としては、露出配管が圧倒的に多かった。また、今回は給湯器の漏水が意外と多かった。今後の対応について重要になってくるのは空き家対策だと思ったので、空き家対策部署等と連携しながら対策を講じていく必要があると感じている。

○本松委員

二次側ということで漏水による水道料金の支払いはお客様負担となるのか。

■事務局（営業管理課 柿原課長）

通常漏水による減免は使用水量の2分の1が基本となるが、今回の寒波による漏水の減免は前年度同水準を超えた水量の100%を減免することとしている。

○本松委員

原因は二次側ということで、特に露出配管が多いということであれば、利用者の皆様に断熱関係等水道管の凍結対策の認識を広げていただければ漏水が減ると思う。来年度以降も寒波はあると思うので対応をお願いしたい。

○広城委員

総合的なまとめとして、齊藤委員から意見があった評価に対して、定量的な評価をしている場合と定性的な評価をしている場合があるが、もっと見える化し、分かりやすくするようにしてほしい。例えば、資料①P9の令和4年度（見込）評価は×になっているのに総合評価はBになっている。なぜ×なのにB評価になるのか分かるように記述をしてほしい。

－ 2 下水道事業について

（事務局より資料①経営戦略に基づく令和4年度取組みと目標の達成状況、資料②-2 令和4年度決算見込み及び計画の推進（下水道事業）を用いて説明）

《質疑・応答》

○香月委員

資料②-2の件で、費用が1億8,000万円程度増加しているが、この中でも水道事業同様動力費の増加があると思うが、次年度はどの程度増加する見込みなのか。

■事務局（総務 藤原補佐）

下水道事業の動力費は、水道事業より費用が多く、12月補正予算で1億円程度の補正を行った。年度間では最大でその倍程度になることが見込まれる。

○齊藤委員

資料①P28の件、下弓削川流域の工事で今年度予定通りの進捗を図れなかったとのことだが、今後スピードアップして追い付けるものかどうかがこの文面ではわかりにくいと感じた。

もう1点、資料①P40について、個別評価にb評価が1つあり、具体的な取組みに積極的な活用を検討していくとあるが、その検討とは久留米市としてどこまで検討することを考えているのかが分かりづらい。こういった点も定性的な評価をできるようにしてほしい。

■事務局（河川課 牧之内課長）

下弓削川流域の件について、限りなく〇に近い×である。少しだけ進捗が遅れている部分があるが、令和5年度には完成予定であるためリカバリーできる予定。

■事務局（下水道整備課 宮崎課長）

P40の説明をさせていただくと、公共下水道の未普及整備について、令和15年度までの完了を目指して進めているが、業務量がかかなりひっ迫した状態になっており、そういった中で民間の活用を検討していたが、生活排水処理基本構想の見直しを行っていくなかで、今後の事業の状況を見ていくということが1つある。もう1つは維持管理の面で職員の減少を見据えて現在検討しており、一方は見合わせ、もう一方は前向きに検証している状況である。今後こういった評価をしていくのかは検討していきたい。

②経営戦略に基づく令和5年度の目標及び取組みについて

（事務局より資料③-1 経営戦略に基づく令和5年度の目標及び取組みについて

（水道事業）、資料③-2 経営戦略に基づく令和5年度の目標及び取組みについて

（下水道事業）を用いて説明）

《質疑・応答》

○松田アドバイザー

資料③-2で令和5年度の下水道事業の目標及び取組みについての話だったのでこれに関連して情報提供をしたい。P6の安定的な下水処理の件で、老朽化した消化槽を更新し、下水汚泥の減量を目指すとのことだが、この下水汚泥をたい肥化、肥料化する話を国土交通省と農林水産省で連携して急ピッチで進めている。下水道のイメージアップにも繋がるので、下水道の汚泥が活用できることを周知していきたい。佐賀市が10年前ぐらいにそういった取り組みを始めており、従来から年間4,000万円程度のコスト削減が達成できている。

また、九州地方整備局の中で、浸水対策について、先月1月に流域治水推進室という組織体を作り、流域治水に取り組むための支援体制を整えたので、相談があったら対応したい。

最後に、上水道の管轄が厚生労働省から国土交通省と環境省に移管する話が決まっており、環境省にも一部移管されるが、大部分は国土交通省で水道行政を所管されることになる。法律の改正等の準備があるので、令和6年4月からの移管となる。上下水道事業が国土交通省所管となることで、連携のメリットが出てくればと思っている。

○権藤委員

浸水対策について、私の居住地周辺は少し高くなってきており、令和4年度は被害もなく、目に見えて対策が進んでいると感じている。予算が少ない中で対応されていることに感謝したい。

また、田んぼや畑が浸水しているので、農家の方の被害を減らす対策が必要だと思うが、ポンプの設置により対策が進んでいると感じた。

筑後川についてだが、川が浅くなっており、また、砂が溜まっていると感じる。筑後川が氾濫すると久留米市は大変危険な状態になるので、浚渫する等の対策を考えていただければと思う。

■事務局（河川課 牧之内課長）

大規模な浸水被害が発生すると1から測量や設計等を2年程度かけて行い、工事に着手するが、工事規模が大きいと2、3年程度かかる場合もあり、対応に時間がかかり申し訳ないと思っている。

筑後川の土砂堆積については、定期的に川の中も含めて測量しており、測量の結果、土砂が溜まっているところもあれば、逆に掘れている部分もあり、総合的にみると大きな支障はないと聞いている。とは言え、雨は強くなっており、筑後川が決壊すると人命に関わるのであらゆる対策を行っている。

③経営戦略の取組み状況について

－1生活排水処理基本構想の見直しについて

（事務局より資料④生活排水処理基本構想の見直しについてを用いて説明）

《質疑・応答》

○香月副会長

生活排水処理基本構想の見直しにあたって、資料③-2になるが、P7に見直しの業務委託で1,080万円の費用があるが、どういう業務委託をするのか。

■事務局（下水道整備課 宮崎課長）

下水道の整備に関し、人口等現状の把握を行い、今後の将来推計を見た上で、今後下水道を整備する中で、投資に対してどれだけの収入が得られるかシミュレーションを行う作業や、下水道区域の見直しによる他の手法の整備にかかる費用の算出、エリア毎の基礎データの収集、法手続きの書類作成等を想定している。

○松田アドバイザー

資料4の5ページ目の基本方針について、①から③までであるが、①の公共下水道整備区域及び期間の見直しを行う中で②の農業集落排水事業について、公共下水道での受け入れが可能か検討を行うのか。①と②の関係を教えてほしい。

■事務局（下水道整備課 宮崎課長）

久留米市では公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽の3つの手法で汚水処理を進めており、公共下水道の見直しは公共下水道で進め、農業集落排水事業はその中で公共下水道に接続することが可能かどうか、それぞれで検討を進めている状況である。

○松田アドバイザー

公共下水道区域が小さくなったら農業集落排水事業に影響するのでは。①から②の流れでのプロセスで検討することになると思うが。

■事務局（下水道整備課 宮崎課長）

まずは公共下水道のエリアをどうしていくのかという検討を進めていき、その中で農業集落排水の受け皿として十分機能するかどうかを検討するという点で一緒に考えているのは間違いない。公共下水道を縮小した部分に農業集落排水が受け入れられるかどうかという視点での検討は行っていない。

○齊藤委員

この見直しはすでに整備されているところも見直すのか。未整備部分の見直しを行うのか。

■事務局（下水道整備課 宮崎課長）

現在行っている見直しは、今から整備をするエリアの見直しである。

○広城会長

公共下水道整備と農業集落排水事業は技術的な面やコストの面でベストミックスの関係を追及して進めていただきたい。

4 令和5年度について

- ・経営戦略中期改定についての諮問、答申スケジュール  
（事務局より資料⑤令和5年度経営戦略年間スケジュールを用いて説明）

《質疑・応答》

質疑なし

《全体を通して質疑・応答》

○香月副会長

今後のスケジュールの中に下水道使用料の検討があり、とてもデリケートな話になる。現在の下水道事業の決算を見ると、雨水と汚水が一緒になった数字になっているので、使用料を検討するにあたっては、雨水については公費で賄い汚水については私費で賄うことになると思うので、雨水と汚水の費用を分けて出していきたいと思う。今の数字の見せ方だと、現在の使用料が適正か不適正か意見が出しにくい状態である。

■事務局（中村次長）

委員ご指摘のとおり汚水私費雨水公費の原則があり、下水道使用料は汚水に関する費用が基礎となるため、分けて検討していく必要がある。

○倉八委員

近年の戦争等の関係で電気ガス代や諸物価がものすごく高騰し、飲食業界は本当に苦慮している。その中、水道料金だけは一定を保っているなので、お礼申し上げたい。



## 5 その他

- 事務局より、会議議事録の公開及び次回の審議会開催日程（令和5年5月頃を予定）について連絡

## 6 閉会

- 広城会長より、閉会のあいさつ